

景観マガジン埼玉スタイル

# S.Style no.11

MASATO  
IWAMA

インタビュー 岩間 正人さん



写真提供：三郷市・(一般社団法人)三郷市観光協会 第28回三郷市観光写真コンテスト 「再来」山口 歩太さん

埼玉県 の東南端に位置する三郷市は、江戸川と中川に挟まれた沖積平野（中川低地）で南北に長い市域を持ち、大場川、第二大場川、二郷半領用水路、市中央部の三郷放水路、市南部の小合溜井（こあいだめい）といった河川や用水路等が、沿川の社寺林や屋敷林は、農地を含む平坦な地形に変化を与え、水と緑が調和した良好な自然・田園景観が形成されています。

三郷市は、昭和31年の三か村合併（東和村、彦成村、早稲田村）による三郷村の誕生以来、昭和39年の町制施行による三郷町を経て、昭和47年に市制が施行されました。

中川沿いの彦成通りに、古い集落の面影が残されている一方で、首都高速6号三郷線や常磐自動車道、東京外環自動車道、また、JR武蔵野線、つくばエクスプレスなど、高速道路や鉄道などの整備が進み、近年では、三郷中央駅周辺、三郷インターチェンジ周辺、新三郷駅周辺等では新たな都市的土地利用が進んでいます。（出典：三郷市HP、三郷市都市計画マスタープラン）

そのまちづくりの中心で日々業務に邁進し、三郷市のみならず、埼玉県庁での業務や、自ら志願し、熊本地震の被災地である御船町での支援業務にあたるなど、その時代ごとに変化する社会的課題に正面から真摯に取り組んでいる、熱き魂を持つ技術者が今、考えていることは…



昭和 58 年（1983 年）6 月に竣工した三郷市役所

**〈三郷市に在住、地元の三郷市役所に土木技師として入庁、土木分野を経て埼玉県庁へ派遣され、都市計画分野に携わり、熊本県御船町へ被災地派遣を経験〉**

■三郷市役所に入庁された動機を教えてください。

■はい。大学院の多くの同級生が建設コンサルタント会社に就職が内定していく状況の中で、私は三郷市在住であったことや、就職活動として市町村職員採用合同説明会（in さいたまスーパーアリーナ）に参加した際に、ご担当の方から、業務について丁寧に説明して頂いたことが、三郷市役所を受験するきっかけになりました。偶然にも、その説明会でのご担当の方が、現在の所属の私の上司である課長であったのも縁を感じています。

■三郷市役所に入庁以来、どのような仕事をされてきたのか、教えてください。

■私は土木技師として採用されました。入庁して3年目までは道路の維持管理部門に所属し、初めは道路の補修で切削オーバーレイ（傷んだ道路の表面を削り、その上から新たなアスファルトを舗設する道路の補修工法）などの工事を多くやらせて頂きました。その後、橋梁の設計にも携わり、橋梁の下部工（橋梁の基礎、橋台や橋脚部分）を発注し、次は上部工（支承、橋桁、床版、地覆、高欄、橋面工等）だというタイミングで埼玉県庁へ派遣されました。



**三郷市立彦成小学校講堂記念館（現在は三郷市立郷土資料館分館として利用）**

**三郷市指定文化財、大正 15 年（1926 年）築**

■まさにインフラの基礎となる分野ですね。

■はい。その後、4 年目から 5 年目には、埼玉県都市整備部都市計画課に派遣され、施設計画担当で都市計画道路などの都市計画施設などについて、都市計画担当では区域区分や地域地区、地区計画について、それぞれものの考え方、他部署や自治体との調整、手続きと多岐にわたって学ばせていただきました。

特に印象的だったのは、埼玉県に派遣されてすぐの 5 月頃だったでしょうか、「防犯のまちづくり」をテーマに、県が実施していた出前講座の講師として、ある市にいきなり一人で出向くことになったことです。突然言われて、その時はとても焦りましたが、それ以来、自分の担当業務はいつでも説明できるようにしっかりと取り組むようになりましたし、度胸もついた気がします。（笑）

■そうだったのですね！三郷市に戻られてからはどのような業務をされたんですか？

■その後、三郷市の都市計画部署に戻り、地区計画の変更や準防火地域の指定、区域区分の見直しなど、埼玉県での経験を業務に活かすことができました。また、地区計画や景観計画の届出業務など基礎自治体ならではの窓口業務も経験させて頂きました。



### 江戸川の水辺景観を彩る「みさとの風ひろば」に設置されている印象的なモニュメント

その後、平成28年度には熊本地震に係る中長期派遣を希望し、熊本県御船町で10月から12月までの3ヶ月間、災害復旧事業に携わりました。御船町の派遣業務については後ほどお話しさせていただきます。

平成30年度からは下水道課の維持管理部門に異動し、下水道の閉塞対応や排水設備検査などの現場仕事から事業計画の変更やストックマネジメント計画の策定などの計画に関する仕事まで幅広く携わりました。これまで都市計画を学んできて、下水道事業という、都市計画の事業としての業務に初めて携わることができました。

令和5年度から都市計画部署に戻りましたが、異動前と異なり公共交通や屋外広告物の業務が加わっており、特に公共交通の業務はコロナ禍を経て「働き方改革（2024年問題）」や「運転手不足」という大きな課題により、これまでの政策から正解が見えない変革を求められる業務に携わりました。

公共交通については、大学院の時に交通系の研究室のお手伝いで、実証実験や調査などに関わっていたため、何か巡り回ってきた縁を感じました。

今現在は、市役所の中の機構改善により公共交通からは外れ、都市計画と景観計画の業務に携わっています。



中川の水辺景観（彦成通りの西側の堤防から撮影）

### 〈社会潮流や時代転換により、携わる業務の変化を実感〉

■入庁された直後の土木分野の仕事から、埼玉県への派遣業務、御船町への被災地支援、帰庁してからの都市計画分野の仕事、と本当に多岐に渡る業務に邁進されてきたのですね。

■そうですね。今思えば、我々の世代の運命なのか、社会の潮流の変化により、様々な時代転換があり、携わる業務も変わってきたな、という印象があります。

これまでの自分の業務と社会の流れを冷静に振り返れば、初めに都市計画に携わった時は、地方分権改革により権限が市町村に移譲される時代背景がありましたし、下水道に携わった時は、インフラの老朽化対策の重要性、つまり新たな整備もさることながら、維持管理の重要性が認識され始めた時期でしたし、公共交通に携わった時は、高齢化や人口減少による課題が顕著になってきた時代背景があります。

改めて、いつも社会的な潮流の変化や転換と同時に自分の担当業務も変わり、自分の業務は社会的課題の解決に向けた直接の取り組みなのだと強く感じています。もちろん答えが出づらく難しい課題ばかりで苦勞していますが。

### 〈御船町への被災地派遣業務が一番印象に残っている〉

■一番印象に残った仕事を教えてください。また、なぜ印象に残っているか教えてください。

■やはり熊本地震に係る被災地である、御船町への中長期派遣が一番印象に残った仕事です。

この仕事は、地震発生後、復興のための応援職員の派遣について依頼が来ていることを知り、自分から派遣を希望したものです。実は、たまたま阪神淡路大震災の1週間前に家族と一緒に、神戸市の三ノ宮駅を訪れていたこと、また無事ではありましたが、父が東日本大震災の際に宮城県にいたことなど、2つ

の大災害の体験が自分自身に大きな影響を与えていたため、熊本地震の派遣依頼を聞いたときに土木職である私が何か少しでも力になればと、手を挙げさせて頂いた次第です。

#### ■ そうだったのですね…。派遣された御船町の状況はいかがでしたか？

■ 御船町は、地震の被害が大きかった益城町の南側に位置し、4月の地震後に発生した6月豪雨により護岸や土砂崩れなどの被害を受けた自治体です。御船町役場には技術職員、いわゆるプロパーの土木技師が少なく、約10名の派遣者がチームとなり、国への災害復旧事業申請の期限までに、国の査定を受けなければならず、被害現場の測量から簡易設計を行い、その設計に対する査定で朱入れ（国の査定官により、査定時に実際の被災現場を確認し、災害復旧事業範囲を確認する行為）して頂くまでを御船町の方と一丸となって対応しました。



御船町内、日向古閑原線における災害復旧事業の査定状況

（一番左側が岩間さん）

派遣者は青森県、山口県、山口県下関市、大阪府枚方市、鹿児島県錦江町・肝付町・南大隅町からと、北から南まで派遣元の地域が異なり、査定申請期限が迫る中、同じ方向を向いて、深夜遅くまで休日返上で一致団結して仕事を熟したことが達成感として深く印象に残っています。

また、現場に出た際に地元の住民の方から派遣に来たことへのお礼の言葉や原木に生えている椎茸を袋いっぱいにご手渡されたことが、今でも心に残っています。

休日も設計業務をしていましたが、特に月曜日から金曜日までは集中的に査定業務に取り組み、金曜日の業務終了後にはメンバーと懇親を深める、といったメリハリのある良いルーティンとなり、業務は大変ではありましたが、その業務の一つ一つが被災地のためになることを実感し、まさに土木技師冥利に尽きる日々でした。

本当に一緒に携わるメンバーが一つの方向、目的を持ち取り組み、更に地元の方に感謝される、ということはこれまで公務に携わってきかなか無かったです。

#### 御船町の広報に掲載された岩間さんの記事（出典：平成28年度 広報みふね2月号）



### 埼玉県

三郷市役所  
まちづくり推進部  
都市デザイン課  
岩間 正人

全国市長会を通して、応募があり、微力でも被災地で何かお手伝いができればと思い、手を挙げました。  
三郷市は、平野部で起伏がないため、山間部の被災はこうなるんだなと感じました。  
建設課土木係に配属され、公共施設の道路および河川を復旧するために国庫補助を取り付ける災害査定に従事しました。  
今回の派遣で痛感した初動対応として被災状況の全容を把握することおよび優先順位をつけ、計画的に復旧するということを今後活かそうと思えます。  
公共施設の道路および河川については、ようやく国庫補助を受ける予定額が決まりました。これから徐々に復旧工事が始まると思います。工事でご不便をおかけすることもありますが、ご理解・ご協力をお願いします。

岩間 正人



## サイクルステーション（三郷市立ピアラシティ交流センター・ピアラシティ中央公園内）

### 〈シェアサイクルの実証実験を開始〉

■ご自分で上手くいったと思われる仕事は何ですか？また、その仕事の中で岩間さんはどういう役割を果たされましたか？

■災害派遣の業務は一番達成感があった業務でもありますが、下水道課時代の耐震化工事として発注した管径 1.2m の管更生工事はそれまで三郷市では発注したことのない工事であったものの現場が無事に完成したという点で手応えがあった仕事でした。

また、公共交通の一助として、シェアサイクルの実証実験を開始する協定を民間会社と締結した仕事についても、市内で利用されている方をよく見かけることで携わった甲斐がある仕事です。

市内には多くのサイクルステーションが設置されていますが、借りたところで返却しなくてもよいため、例えばバスの乗り継ぎとかにも便利に使用して頂いているようです。

### 〈景観賞による良好な景観の啓発〉

■三郷市の景観の取り組みについて教えてください。

■三郷市では平成23年4月から三郷市景観計画及び景観条例の運用がはじまり、一定の条件を満たした建築物は届出を要し、更に大規模な建築物においては三郷市が委託しているアドバイザーの意見を提示する制度を適用しています。三郷市では伝建地区など特筆すべき景観資源がありませんが、市民へ良好な景観を啓発するために景観賞を6回実施しています。



写真提供；三郷市 第5回三郷市景観賞 景観優秀賞 NO.5「彼岸花と江戸川鉄橋」 深見 和博さん

〈正確にわかりやすく伝えることは難しい。多様な主体と共通の目標の共有に努めている。〉

■岩間さんは、日ごろ、市民、事業者、関係団体など、多様な主体とどのように関わっていらっしゃるのか教えてください。

■相手が求めていること、知りたいことを意識して聴き、自分の考えや知識をわかりやすく簡潔に伝えることを心がけています。

しかし、法律や条例を意識して正確に伝えようとするとうどうしても話が長くなり、また、専門用語を多用しがちになってしまうため、伝えることの難しさを感じています。

日々、多様な主体との関わりは、関わる事象における自身と相手方の立ち位置や立場、関係性を理解してから臨み、共通の目標を認識し、共有するように努めています。



写真左：三郷市立ピアラシティ交流センター



写真右：三郷中央におどりプラザ



写真提供：三郷市・(一般社団法人)三郷市観光協会 第28回三郷市観光写真コンテスト 「流動」山口 歩太 さん

### 〈重要なインフラ配置による特徴的な都市構造と今後の社会構造の変化により、 今後の土地利用の姿も変化する〉

■岩間さんの考える、過去から現在の三郷市のイメージと、将来のイメージを教えてください。

■三郷市の過去現在将来にわたり変化しないイメージは「東京近郊」につきます。この「東京近郊」であることがこれまでも、これからも三郷市のメリットである、というのが三郷市のイメージです。

もちろん、この「東京近郊」の意味が時代で変化すれば、またメリット、デメリットも変化していくとは思いますが。

都市計画的な視点で過去からみると、本市は東西に位置する中川、江戸川沿いの集落から始まっています。市域の縁辺部が市街化区域で、地理的な中心部が市街化調整区域という稀な都市構造から市制が始まり、時を経るにしたがって、市街化調整区域に高速道路（東京外環自動車道・首都高速6号三郷線・常磐自動車道）やつくばエクスプレスといった重要なインフラが整備されたことにあわせて、必要な範囲を市街化区域に編入していったという経緯があります。後から市街化区域に編入した、いわゆる新市街地は土地区画整理事業を実施していますが、三郷市内における土地区画整理事業は組合施行を基本とし、他自治体の土地区画整理事業と比べ短期間で完了していることが特徴であるため、市外から三郷市をみると急速に発展したように見えます。

しかし、都市計画としては縁辺部の古くからの市街地と、後から編入した市街地に挟まれる形で残った市街化調整区域が今後の課題であると思っています。

これまでの急速な発展は、三郷市民、また関係する方々、先人の努力の賜物ですが、前述したエリアの土地利用を考えるにあたっては、今後の少子高齢化による人口減少、商業や産業など各分野のニーズの変化、といった社会情勢を鑑みた検討や取り組みがますます必要であり、それにより将来の姿やイメージも変わるのだろうと思っています。



■ 本日は、お忙しい中、ありがとうございました。

■ ありがとうございました。

\*\*\*\*\* 聞き手、編集：埼玉県指定景観整備機構 都市づくりNPO さいたま 細田 隆  
監修：埼玉県都市整備部都市計画課



岩間 正人（いわま まさと）

昭和56年生まれ。

埼玉大学 工学部 建設工学科 卒業

埼玉大学大学院 理工学研究科 修士課程 修了

平成19年度、三郷市役所に入庁、建設部治水土木課土木係に配属

平成22年度、埼玉県都市整備部都市計画課施設設計画担当に派遣

平成23年度、(同上) 都市計画担当に異動

平成24年度、三郷市まちづくり推進部都市デザイン課に帰任

平成28年10月～12月、

熊本県御船町に災害派遣され、災害復旧事業に従事

平成30年度、三郷市建設部下水道課に異動

令和5年度、三郷市まちづくり推進部都市デザイン課に異動

(現在に至る)

・三郷市都市計画マスタープラン

[https://www.city.misato.lg.jp/soshiki/machizukuri\\_suishin/toshidezain/8/toshimasu/index.html](https://www.city.misato.lg.jp/soshiki/machizukuri_suishin/toshidezain/8/toshimasu/index.html)

・三郷市景観計画

[https://www.city.misato.lg.jp/soshiki/machizukuri\\_suishin/toshidezain/2/293.html](https://www.city.misato.lg.jp/soshiki/machizukuri_suishin/toshidezain/2/293.html)

・三郷市景観賞

[https://www.city.misato.lg.jp/kankyo\\_machizukuri/keikan/keikansho/index.html](https://www.city.misato.lg.jp/kankyo_machizukuri/keikan/keikansho/index.html)

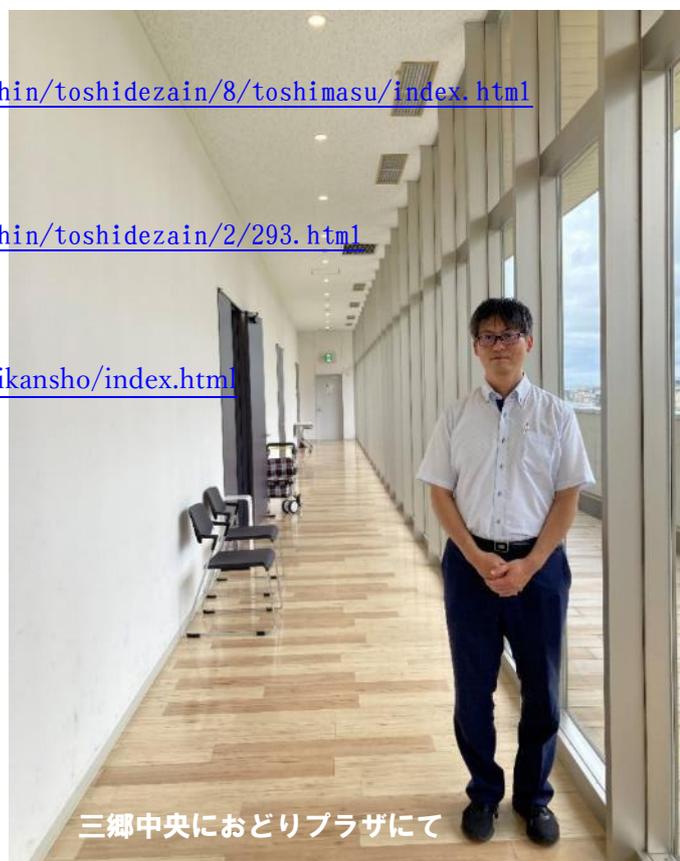
・(一般社団法人) 三郷市観光協会

<https://misato-city.com/>

景観マガジン埼玉スタイル S.Style no.11

監修・発行：埼玉県都市整備部都市計画課 2025年8月

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1



三郷中央におどりプラザにて